

令和6年度 山口県立宇部商業学校 学校評価書 校長(久保田 力哉)

1 スクール・ミッション、学校教育目標	
地域・社会や地元企業と連携・協働した実践的・体験的な教育活動や、ビジネスに関する課題を自ら考え、解決する学びなどを通して、豊かな人間性や社会性、ビジネスマナーを備え、社会の変化に対応しながら、地域・社会や地域産業を担う人材を育成します。	
2 スクール・ポリシー	
<b>グラデュエーション・ポリシー</b> (育成をめざす資質・能力に関する方針)	①ビジネスを通して、地域産業に貢献しながら、経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を有する生徒を育成します。 ②基本的な生活習慣を身に付け、健やかな心身を育むとともに、潤いのある人生を築くことができる生徒を育成します。 ③学業、部活動、学校行事等を通して、知識や体力・技能の向上に努め、明るくたくましく生きることができる生徒を育成します。 ④学習した基礎・基本をもとにして、社会の変化に自ら対応することができる生徒を育成します。 ⑤勤労や奉仕の心を養い、情操を育み、心豊かな生活を送ることができる生徒を育成します。
<b>カリキュラム・ポリシー</b> (教育課程の編成及び実施に関する方針)	①各教科・特別活動を通して、主体的・対話的で協働的な学びを実現します。 ②基礎学力の定着を図るとともに、学科の専門性を深化させ、個々の生徒の能力・適性に応じた社会に開かれた教育課程を実現します。 ③選択科目や少人数指導を設け、多様な進路希望に対応できる教育課程を編成します。 ④「宇部商コレクション」や「インターンシップ」などを通して、地元企業や関係機関と連携した体験的・実践的な学習活動を実施します。 (商業科) ・「卸売・小売・製造・サービス・金融および会計」のスペシャリストとして、ビジネスに役立つ人材をめざすことができる教育課程を編成します。 ・ビジネスの諸活動に関する幅広い知識や技術を身に付け、就職にも進学にも対応できる教育課程を編成します。 (総合情報科) ・情報処理やプログラミングの授業を通して、コンピュータやネットワークを活用する知識や技術を習得し、ICT活用のスペシャリストをめざすことができる教育課程を編成します。 ・ビジネスにおけるコンピュータの活用方法を身に付け、就職にも進学にも対応できる教育課程を編成します。
<b>アドミッション・ポリシー</b> (入学者の受け入れに関する方針)	①商業(ビジネス)活動に関する興味・関心と明確な目的意識をもち、何事にもひたむきに努力できる生徒を募集します。 ②基本的な生活習慣や規範意識等を身に付けた生徒を募集します。 ③学習や部活動、生徒会活動やボランティア活動等に積極的に取り組む生徒を募集します。 ④資格取得に挑戦し、自らすすんで自己の進路を切り開いていくことのできる生徒を募集します。 ⑤地域社会に貢献するために、自他の価値を尊重しながら、他者と協働的に取り組むことのできる生徒を募集します。

3 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
【総務部】感染症予防に配慮しながら、教職員と保護者の共通理解と協働体制の確保を図り、学校行事の円滑な運営に寄与する。 【教務部】校務支援システムを中心とした教務に関する業務の安定した運用、そして、生徒の学習意欲の向上を図るための取り組みが必要である。 【生徒部】各種学校行事等を通して、互いを思いやる心や社会的絆を育むための体験活動等を行い、心の教育の充実を図る。アンケートや面談等によって生徒の実態把握を行い、校内だけでなく、外部とも連携した生徒の支援体制の構築を図る。生徒の基本的な生活習慣確立のため、教職員が統一した指導ができるよう、適宜共通理解の場を設け、継続した活動を行う。 【進路指導部】生徒の進路希望実現のため、インターンシップや進路ガイダンス、職場見学、進学希望者に向けては早い段階からの大学等の情報提供に努める等各種進路行事を計画・実施し、キャリア教育の充実を図るとともに、地域と連携し、地元で活躍する人材の育成を図る。 【保健体育部】基礎体力の向上を図り、体育行事を安全に行う。また、生徒自身による健康管理の徹底や定期健康診断後の事後措置の取り組みを徹底させる。 【商業部】急速な社会状況の変化への対応力を授業や学校行事を通して育成する。そのためどのような取り組みが必要か検討し、発展させていく。また、平時の授業や資格取得をとおして生徒の専門性を高める。生徒の学習意欲向上のための取り組みを推進する。 【情報科】ICT関連の(タブレット・クラウド化等)適切な運用・管理及びWeb等を活用した魅力的な情報発信。 【業務改善】組織としての協働体制を確立し、効率的な業務遂行を行うことで、働き改革を推進し、生徒を支援する時間の確保及び教職員のワークライフ・バランスの実現に努める。 【全般】ICTの効果的な活用や授業改善等による学習指導の充実、資格取得の指導の充実により、生徒の自ら学ぶ力を育み、商業高校の生徒としての専門性を高める。また、体験的活動や問題解決型学習及び学校行事等を通して生徒の規範意識の醸成や主体性を育む教育活動を推進する。

4 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組みべき課題
1 学習指導の改善・充実 … ICTの積極的な活用 2 規範意識の醸成 … 気持ちのよい挨拶・掃除の励行 3 開かれた学校づくりの推進 … 積極的な情報発信 4 地域連携教育の推進 … 豊かな体験活動・地域行事への参加等 チャレンジ目標 … ①気持ちのよい挨拶を行い、相手を思いやり、活気ある学校を創ろう。 ②ゴミをなくし、美しい学習環境を整えよう。 ③「～思いを夢へ、夢を志へ～」を実現させよう。

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	6 学校関係者評価	
						学校関係者からの意見・要望等	評価
総務部	○学校行事の円滑な運営	・教職員の共通理解に基づく学校行事の計画・立案・準備を行う。	学校評価アンケートにおいて、学校行事に関する項目について肯定的意見 4:90%以上 3:80%~89% 2:70%~79% 1:69%以下	4	・感染症予防に配慮しながら、生徒の意見も取り入れコロナ前と同等の学校行事の実施した。また、前例にとらわれないことなど一つひとつの行事の望ましい在り方を検討し、計画・立案・準備を行った。	・先生方の働き方改革、保護者の考え方、生徒の意識など、やりにくい要素は多いと思いますが、生徒の自主性を引き出す行事に取り組んでいきたい。 ・体育大会や宇部商コレクションの生徒のいきいきとした表情がとても印象的だった。 ・関連するアンケートの結果が良好。 ・前例を踏襲しない姿勢が非常にいいと感じた。	A
	○学校とPTAとの密接な連携	・「PTA会報」(年2回発行)によって保護者と学校の連携を図る。 ・PTA総会やPTA評議員会(年3回実施)、PTA研修会等によって保護者の意向を把握し、教職員へ伝達する。	4:PTAの学校行事出席率が70%以上 3:PTAの学校行事出席率が50%以上 2:PTAの学校行事出席率が30%以上 1:PTAの学校行事出席率が30%未満	3	・「PTA会報」を年2回発行し、学校とPTA役員・役員以外の保護者との連携に努めた。 ・PTA総会を実施し、授業参観やクラス懇談会、部活動懇談会、吹奏楽部、応援部のアトラクションなどを実施した。保護者に学校の状況を知っていただき、連携に努めた。また、PTA懇親会を開催、宇部商コレクションではPTAによるコストコフェアと缶バッジ制作を開催、保護者間の交流や会議等を通じて、保護者の意向を把握することができた。	・学校評価アンケート「学校と家庭との連携」について、保護者も教員も肯定的な意見が85%を超えているが、教職員の昨年度比マイナス10.7%が気になる。	B
	○「豊かな心を育む教育」を推進するための適切な図書運営や読書指導	・「図書だより」を充実させる。 ・校内読書会等を開催し、読書への興味を持たせる。 ・図書室を整備し、利用の機会を広める。 ・生徒が主体的、主体的に委員会活動に参加できるように取り組む。	4:生徒の年間貸出冊数が300冊以上 3:生徒の年間貸出冊数が200冊以上 2:生徒の年間貸出冊数が100冊以上 1:生徒の年間貸出冊数が99冊以下	4	・デジタルサイネージ、図書だよりを活用し図書の紹介や、図書館の情報を提供した。 ・教職員のおすすめの本などを紹介し、貸出冊数の増加につながった。 ・委員会が企画したPOPコンクールやビジュアルコンクールを実施した。今後も生徒の活動の幅を広げ、委員会活動をさらに充実させたい。	・学校評価アンケート「図書館は利用しやすく、読みたくなる本が多くある」について、肯定的意見が、4分の3を超えるような対策がほしいです。(肯定的意見:74.3%) ・教職員のおすすめの本などが紹介することで、生徒に親近感を感じてもらった取組が非常に良いと感じた。	B
教務部	○基本的な生活習慣の確立と落ち着いた学習できる環境づくりの推進	・朝の学習や10分間テストに取り組ませる。 ・行事等の精選や学習環境の整備を図り、落ち着いた授業に取り組ませる。	学校評価アンケートにおいて、朝の学習や10分間テストの項目について肯定的意見 4:80%以上 3:65%~79% 2:50%~64% 1:50%未満	4	・10分間テストの取り組みを推進し、学習習慣を定着させるために、成績上位者や上位クラスの表彰や、苦手な生徒への励ましなどをおこなった。その結果、「朝の学習や10分間テスト」にしっかり取り組んでいる」というアンケート項目に肯定的に回答した生徒は87.1%、教員は71.4%である。教員の肯定的意見が昨年度比で約14%上昇している。 ・学習環境に関するアンケート項目の肯定的意見は、生徒が81.8%、保護者が79.7%、教員が53.6%である。ICT機器の整備と活用が多くの授業でおこなわれている結果である。	・学校評価アンケート「朝の学習や10分間テスト」にしっかり取り組んでいる」について、よくあてはまる回答で、生徒(87.1%)と教員(71.4%)の差が大きいのが気になる。 ・ソフト面なのかハード面なのかわかりかねるが、学習環境に対して「本校の施設・設備は充実している」と答えた教員が5割強しかいないのが気になる。 ・環境整備について教員側が懸念していることがうかがえる。具体的な改善点が判明しているのであれば、対応可能なところからお願いしたい。 ・10分間テストを導入することで、知識の定着につながると感じた。	B
	○基礎基本の充実を図り、目的意識をもち意欲的に学習活動に取り組む態度と知識を活用する実践力の育成	・生徒が意欲的に学習活動に取り組み、知識をもとに活用できる力を養えるような授業を展開する。 ・授業アンケート等を実施し、教材や授業の改善を行う。	学校評価アンケートにおいて、教育課程や学習指導に関する項目について肯定的意見 4:80%以上 3:70%~79% 2:60%~69% 1:59%未満	4	・教育課程編成に関するアンケート項目の肯定的意見は、生徒が94.4%、保護者が93.6%、教員が89.3%である。教育課程検討委員会で丁寧な議論がおこなえたと、引き続き、先生方の希望を吸い上げることのできる環境づくりに心がける。 ・理解度にあった学習指導に関するアンケート項目の肯定的意見は、生徒が95.3%、保護者が90.0%、教員が89.3%である。今後は統一した基準での授業アンケートをおこない、より正確に生徒の意見を授業に反映させたい。	・学校評価アンケート「教育課程編成、理解度にあった学習指導」ともについて、肯定的意見が高いので、来年度以降の取組も期待する。 ・10分間テストの継続的な取組が基礎・基本の充実や学習習慣の確立につながっているように思う。 ・学校評価アンケート「教育課程や学習指導」について、肯定的な意見は多いものの前年度からマイナス7%となっているところが気になる。	A
	○家庭や部活動との連携のとれた学習活動の促進	・家庭学習に対する意欲を高める。 ・授業の復習に重点を置いた学習課題を課す。 ・保護者の協力を求める。 ・部活動の協力を求める。	学校評価アンケートにおいて、家庭学習に関する項目について肯定的意見 4:60%以上 3:50%~59% 2:40%~49% 1:40%未満	3	・「自分は(お子様は)、日頃から家庭学習をしている」というアンケート項目の肯定的意見の割合は、生徒が38.6%、保護者が46.2%である。家庭学習に関する保護者の力を求めるために、10分間テストの結果を通知票と一緒に配付するなど工夫をおこなったが十分な効果を得られなかった。 ・学校と家庭の連携に関するアンケート項目の肯定的意見は、保護者が86.5%、教員が85.7%である。今後は学習指導の推進に関しても保護者の理解を得られるような取り組みを重視したい。 ・家庭学習に関するアンケートを8割、家庭との連携に関するアンケートを2割として計算した結果、肯定的意見は約51%となる。	・学校評価アンケート「日頃の家庭学習の」について、肯定的意見が低く(昨年度比-10.4(生徒))改善を期待する。 ・部活動に積極的に取り組まれていることは評価できるが、一方学校評価アンケート「日頃から家庭学習をしている」と答えた生徒が4割に満たないという点が寂しいと感じた。部活動とのバランスや高立が図られるよう引き続き取り組んで欲しい。 ・学校評価アンケートの「家庭学習をしている」と回答の基準は何だろうか。生徒・保護者ともに50%を下回っている。	B
生徒部	○基本的な生活習慣の確立	・挨拶運動、生活指導(講義、頭髪服装検査など)を通じて礼儀正しさを、時と場に応じた身だしなみや行動がとれるようにする。	学校評価アンケートの基本的な生活習慣に関する項目について肯定的意見 4:90%以上 3:80%~89% 2:70%~79% 1:69%以下	4	・「基本的な生活習慣が身に付いている」、「校則の遵守」については、生徒の97.2%、保護者の93.2%が肯定的評価をしている。 ・週2回の登校指導により遅刻する生徒もほぼなく、挨拶の習慣もかなり身に付いている。大半の生徒は基本的な生活習慣が確立できているが、一部の生徒に服装頭髪等の指導を要した。 ・安心安全のためにスマートフォン・携帯電話の所持は許可している。数名の生徒への指導はあったものの、ほとんどの生徒が本校の所持規定を守って利用できている。	・学校評価アンケート「生徒は、校則を守り、基本的な生活習慣が身に付いている。」について、肯定的意見で、生徒(97.2%)と教員(78.6%)の差が気になる。教員の思ふレベルの到達が必要かもしれない。 ・校則の厳しさについての生徒からの意見があると思うが、宇部商生として校則の意味を考えた、大切にしていきたい誇りととらえている生徒もいると思う。	A
	○問題行動の未然防止、及び問題行動件数の減少	・各種講話や学校行事を通じた開発の生徒指導を行う。 ・学年、教育相談、いじめ対策委員会などにおける情報共有を密に行い早期対応を心掛ける。	年間を通じて、生徒指導上の問題行動 4:10件未満 3:10件~20件 2:21件~30件 1:30件以上	4	・いじめを許さないという生徒の意識は高いと思われる。今後も教員間の連携を強め、情報共有を密にして未然防止のための開発の生徒指導や、早期発見、早期対応を心掛けたい。また「いじめ防止基本方針」を通じて、ホームページへの掲載をしているが、PTA総会や保護者会を通じて、十分周知しているよう取り組んでいきたい。 ・問題行動の未然防止に努めてきたが、今年度は3件(1月現在)の特別指導を行った。特別指導後に必要に応じてカウンセリングなどを実施し、事後の継続的な指導を行った。 ・来年度は評価基準の見直しが必要。	・生徒指導上の問題行動が、10件未満(3件)だが、問題行動の中身が、どうであるか、どう改善したかがポイントだと思う。 ・特別指導3件の対象となった問題行動の内容はわかりかねるが、重く受け取るべきだと問題。当該生徒の将来に向けた適切なアフターケアをお願いしたい。	B
	○交通安全の意識啓発やマナー指導	・交通安全教室の実施により、生徒の交通安全に対する意識を高める。 ・毎朝の立哨指導により、生徒の安全確保に努める。	交通事故件数が年間 4:5件未満 3:5件~10件 2:11件~15件 1:16件以上	4	・交通安全教室の開催等により、生徒の自転車乗車時の安全意識の高揚に努めた結果、1月現在の交通事故件数は2件にとどまっている。交通事故ゼロを目指して今後も意識の高揚に努めたい。 ・登校時の正門付近の立哨指導、地下道~学校正門間の交通指導により、学校周辺の生徒の安全確保に努めている。一部で登下校の状況に地域から苦言をいただくこともあったので、今後より一層の安全意識、交通道徳意識の高揚に努めたい。	・交通事故ゼロを目指してもらいたい ・横断歩道で頭を下げてくれる生徒がいて好感もてる。 ・生徒・教員ともに肯定的な意見が多いが、前年比低下(教員マイナス10.7%)、保護者・地域の見方・感じ方から、改善すべき点がありそう。	A
	○学校不応答等の問題を抱える生徒への支援、教員やカウンセラーの相談体制の整備	・個別の事案に対して支援・対応策を、事例検討会や生徒支援委員会等で検討する。 ・学年やスクールカウンセラー等との連携を密にし、早期対応に努める。	学校評価アンケートの悩みや困ったことを教員やスクールカウンセラーに相談できることについて肯定的意見 4:90%以上 3:80%~89% 2:70%~79% 1:69%以下	3	・学期毎にアンケートを実施し、自由記述欄を設けて、生徒の実態把握に活用した。 ・夏休みに部活動の顧問による面談、9月には教育相談週間を設け、担任による個人面談を行った。面談で気になった情報や毎日の欠欠・遅刻・早退状況等、学校生活の中で気になる生徒については、担任や学年、部活動の顧問と情報共有し、必要に応じて対応した。 ・学期ごとに実施した学年支援会議では、問題の大小に関わらず情報共有することができ、生徒の実態把握において効果的であった。 ・積極的なスクールカウンセラーの活用が、生徒の悩みを解決する一助となった。教員や保護者も生徒への対応について助言を受け、教育活動に生かすことができた。 ・生徒支援委員会を実施し、気になる生徒について様々な方からの意見を伺いながら、生徒の支援について協議した。 ・問題を抱えている生徒については、教育相談担当を中心に関係者が検討を重ね、支援を行ってきた。情報共有と支援の体制の構築をさらに進めたい。	・悩みを気軽に相談できる雰囲気づくりをお願いしたい。 ・学校評価アンケート「悩みや困ったことを教員やスクールカウンセラーに相談できる」について(生徒:86.8%)、教員(93.2%)の認識(70.1%)の認識にギャップがあるように見える。制度の周知とともに、満足度なども確認する必要があるのではないだろうか。	B
	○人権教育や命の大切さなどの教育を行い、いじめの未然防止に努める	・LHRや授業において人権教育を行い、人権課題について自ら考え、解決しようとする態度を育成する。 ・講演会等を開催し、人間のあるべき態度を育成する。 ・校内人権教育研修会及び人権教育委員会を開催し、校内の人権課題の解決に取り組む。	学校評価アンケートの人権教育の項目について、肯定的意見 4:90%以上 3:80%~89% 2:70%~79% 1:69%以下	4	・人権に関するLHRを各学年で行った。1年生にはデートDVについての講演、2年生には障害当事者による講演を行った。3年生には過去の履歴書を提示し、就職差別について学習した。 ・1・2学年を対象として、携帯・スマホのマナーやSNSの危険性など生徒に身近な課題についても講演会を開催した。 ・アンケートで、生徒の91.8%が「人権尊重や命の大切さなどの心の教育」について肯定的評価をしている。学校と家庭の連携は「人権教育」を進める上で重要であるため、保護者に対しても学校での取組をしっかりと情報発信していく必要がある。	・LGBTQなど、多様性が言われる現在、指導の難しさがあると思う。 ・校長先生自ら生徒集団の前で熱い思いを伝える場があるということが素晴らしいと思う。 ・教員の評価の前年度と比べて厳目(マイナス14.3%)だが、保護者対応などが一部の教員に偏らないようにお願いしたい。	A

進路指導部	○就職希望者に対する進路指導の充実と希望進路の実現	・生徒の発達段階に応じて、インターンシップや進路ガイダンス、職場見学等の進路行事を実施する。 ・各分掌、各教科、各部活動と連携し、ICTを活用してキャリア教育の充実を図る。 ・公務員志望者に向けて、公務員ガイダンスやセミナーを早期から計画的に実施する。	4 就職希望者の内定率80%以上 3 就職希望者の内定率70%以上 2 就職希望者の内定率60%以上 1 就職希望者の内定率60%未満	・本年度教員による職場訪問を実施、生徒のインターンシップ、進路ガイダンス、応募前職場見学等も実施した。特に応募前職場見学には29社、29人の生徒が参加した。 ・LHRの進路ガイダンスではICT機器を使用し、生徒の受験体験談はオンラインで実施した。また、本年度より、Handy進路指導室の導入により、求人表の閲覧を完全にWeb上で行うこととし、求人公開がスピーディーになった。 ・検計事項であった履歴書の電子化を今年度より導入したが、特に支障はなく、作成がスムーズに行えるようになった。	・働きがいを感じられる就職先への就職となるよう、1人ひとりの個性にあった指導をお願いしたい。 ・「地元就職」の強みを生かされていると思う。 ・生徒からの評価が最も高く、指導に対する信頼の表れと思う。引き続き、生徒に寄り添った指導をお願いしたい。 ・学校評価アンケートの肯定的意見の昨年度対比増減について、僅かであるが生徒・保護者(増加)と教員(減少)の傾向が異なります。キャブの要因を調べて次年度に活かして欲しい。	A
	○進学希望者に対する進路指導の充実と希望進路の実現	・進路希望調査や進路面接等を計画的に実施し、自らの適性に気づかせ、進路先の早期決定を促す。 ・生徒自ら進路選択ができるよう、早い段階から進学情報を適宜提供する。 ・進学希望者に向けて小論文模試等を実施する。	4 進学希望者の希望先合格率80%以上 3 就職希望者の希望先合格率70%以上 2 就職希望者の希望先合格率60%以上 1 就職希望者の希望先合格率60%未満	・進路希望調査、進路面接を計画的に実施し、進路選択の手助けができた。 ・進学の指導では、早い段階で小論文指導を実施。受験希望者の意識付けになった。進路に関する情報提供について、適宜おこなった。	・進学先の卒業後の進路を見ずえた指導をお願いしたい。	A
保健体育部	○体力の維持向上を目指す指導の充実	・各種目のスポーツ活動を奨励し、基礎体力の向上を図る。 ・授業内での補強運動(筋力・瞬発力)を改善し、新体力テストの筋パワーを向上させる。 ※筋パワー-学校全体Tスコア 45.4(R5)	新体力テスト(筋パワー)の結果 4:Tスコア50以上 3:Tスコア47以上 2:Tスコア45以上 1:Tスコア45未満	・昨年度の筋パワーのTスコアが45.4に対して、R6の測定値が47.2であった。 男子47.5(昨年 47.0) 女子47.0(昨年 43.8) 2年生男子49.1(昨年 46.7) 女子46.7(昨年 41.9) 3年生男子46.8(昨年 45.8) 女子49.0(昨年 45.1) 授業における補強運動の改善をおこなった	・昨年よりも新体力テストの結果が良いので、引き続きスコア維持を希望する。	B
	○集団行動の実践	・「敏速・正確・安全」を旨とする集団行動を実践する。 ・傾聴力(聞く力・理解して行動する力)を向上させることで、規範意識を醸成する。	学校評価アンケートにおいて、1年間の健康(安全)に関する項目について肯定的意見 4:80%以上 3:70%~79% 2:60%~69% 1:59%未満	・従来通りの「敏速・正確・安全」を旨とする集団行動を行うことができた。 ・学校評価アンケートの健康(安全)に関する肯定的意見が88.4%。 傾聴力を高め、規範意識が高まったことが、大きな事故や怪我を防ぐ要因と考えられる。	・集団行動には、約束を守ることが重要だと思う。 ・引き続き伝統でもあるので継承して欲しい。	A
	○健康・安全教育の推進	・定期健康診断の事後措置の徹底を図る。 ・健康な心身・疾病・事故・災害についての基礎知識を養成する。	定期健康診断後の再受診率 4:90%以上 3:70%~89% 2:50%~69% 1:50%未満	・再受診率 全体で90.7% 歯並び61.5% 他ほぼ100% ※歯科矯正は費用が高額なため、受診指導をしていない ・再受診していない生徒を対象に、健康な心身、疾病についての勉強会を開催した。	・再受診率100%を目指してもらいたい。	A
情報部	○積極的な情報発信	・個人情報に配慮しながら、公式Webサイト等を利用して、魅力ある学校情報を適正に発信する。	4:公式Webサイトの等の月間更新回数5回以上 3:公式Webサイトの等の月間更新回数4回以上 2:公式Webサイトの等の月間更新回数3回以上 1:公式Webサイトの等の月間更新回数3回未満	・宇部商業高校公式webサイトの宇部商ニュースにて学校行事、出前授業、部活動など多岐に渡る情報を頻りに発信することができた。また、総合実践におけるSNSにおいてインスタグラム(147,000件以上のアクセス)による情報発信にも取り組むことで、従来以上の情報発信に取り組むことができた。	・情報化社会においては、Web サイトの情報の正確性が大切。 ・文化部の活躍や学校行事など報道機関を活用した対外的な情報発信がもたらす効果は大きいと思う。 ・Instagramのアクセス数向上は素晴らしいと思う。このようなノウハウは是非とも後輩に伝承して、生徒主体の広報活動も充実させて欲しい。	A
	○社会への対応力(ビジネスマナーやコミュニケーション能力など)の習得	・授業や学校行事を通じ、コミュニケーション能力や挨拶の重要性を理解させ、日頃から実践できるようにする。 ・宇部商コレクション、インターンシップなどの学校行事を通じ、ビジネスマナーの習得やコミュニケーション能力の向上など社会への対応力を身に付けさせる。	学校評価アンケートにおいて、「挨拶や言葉遣い、マナーなど社会人として必要な資質」の項目について、肯定的意見 4 生徒 肯定的意見90%以上 3 生徒 肯定的意見80%以上 2 生徒 肯定的意見70%以上 1 生徒 肯定的意見69%以下	・生徒 肯定定期意見 95.3% ・挨拶や礼儀の重要性に関して、授業や行事など様々な場面で指導をおこなった。特に3年次の授業では発表の機会を多く設けてコミュニケーション能力の育成を図った。 ・宇部商コレクションやインターンシップなどで実践的なビジネスマナーを学ぶことができた。宇部商コレクションを昨年度よりも充実させたことにより生徒は様々な企画を立案・実行し、生徒同士だけでなく関係業者と話し合ったり協力したりすることをおして、社会への対応力の向上を図ることができた。	・社会人となる前にコミュニケーション能力をしっかりと身に付けてほしい。 ・引き続き伝統でもあるので継承して欲しい。 ・宇部商コレクションの際の生徒の対応が良かったのが印象に残っている。交通安全マナーとも運動できると更に良くなると思う。 ・学校評価アンケートの肯定的意見の昨年度対比増減について、僅かであるが生徒(増加)と保護者・教員(減少)の傾向が異なる。生徒の視点では十分と感じていても、社会人である保護者や教員の視点では十分というところだろう。挨拶や身だしなみの実践そのものが目的となっているのではないかと考える。宇部商は挨拶ができる生徒が多いことが高評価を得ている一つの要因なので、今後も積極的に取り組むことを期待する。 ・宇部商コレクションの取組は、地域の方とコミュニケーションを取るいい機会となっていると感じる。	A
商業	○平時の授業や資格取得をとおして生徒の専門性を高める	・自ら学ぶ意欲を向上させ、学習した内容の定着、深化を図るため、各種検定試験の受験を促す。 ・学習意欲を喚起するとともに、将来の目標を明確にさせる。 ・全商3種目以上1級合格者30名以上を目指す。	学校評価アンケートにおいて、「本校は、生徒の理解度にあった学習指導を行っている」の項目について肯定的意見 4 生徒 肯定的意見90%以上 3 生徒 肯定的意見80%以上 2 生徒 肯定的意見70%以上 1 生徒 肯定的意見69%以下	・生徒 肯定定期意見 95.3% ・各自で目標を設定し、自らが学ぶ意欲を持って検定試験を受検することで、学習内容の深化を図ることができ、また、将来の進路に向けての意識付けをおこなうことができた。 ・学習意欲喚起のためにデジタルサイネージでの検定受検奨励、歴代の三種目以上合格者の掲示、検定の都度の検定課外をおこなった。 ・全商3種目以上1級合格者は7名である。	・自ら学ぶことのできるよう指導をお願いしたい。 ・資格取得はスキルアップを図り専門性を向上させる手段ではあるが、必ずしも専門性向上につながるという限りはないと思う。資格取得を一つのモチベーションとして捉えながらそのことに縛られることなく、生徒の学習意欲向上に引き続き取り組んで欲しい。 ・デジタルサイネージを活用し、資格取得を知らせる取組は、生徒のモチベーションの向上につながると思う。	A
	○業務改善	・ICTの活用等による業務の効率化・負担軽減。 ・ノー残業デーの設定や留守番電話の活用により、早期帰宅の呼びかけを行う。 ・部活動運営方針に沿った適切な部活動指導(適切な休養日と活動時間の設定)。	4:時間外在校時間が、前年度比6%以上減少。 3:時間外在校時間が、前年度比4%以上減少。 2:時間外在校時間が、前年度比2%以上減少。 1:時間外在校時間が、前年度比2%未満減少。	・時間外在校時間は、前年度比4%以上減少した。(昨年59.8時間、本年:57.4時間) ・本年度、業務用パソコンのフルクラウド化に伴い情報部を新設し対応したが、大きな混乱はなくスムーズな移行ができた。ICT支援員の適切な対応も大きく寄与している。業務においてペーパーレス化や各種アンケート等の集計等もICT化が進み業務改善につながっている。 ・本年度、新たに「チャレンジ働き方改革」というキャッチフレーズを掲げ、①ノー残業デーの追加②各種会議時間1時間以内③最終退校時刻19時30分の3本柱で、教職員相互の声掛け等の意識改革にも取り組んだ。 ・時間外在校時間の理由の大半が、部活動指導のためであり、部活動活動方針に沿った活動時間や休養日の設定等に改善の余地がある。	・どこの職場も、働き方改革で、特に時間を要する教育の現場では大変なこともあると思う。 ・学校評価アンケート「分掌や学年間の連携がとれ、教員間の情報共有が図られている」(肯定的意見75.0%)、「業務の効率化に向けた取組が図られている」(肯定的意見60.7%)において他の項目と比較して低めの数値が気になる。前年度比で低下している項目については注意が必要なところだと感じる。	B

### 7 学校評価総括(取組の成果と課題)

<p>【総務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防を行いつつ、生徒の意見も取り入れ学校行事の立案計画に努めた。しかしながら、コロナウイルスやインフルエンザなど感染症の状況が目まぐるしく変化するなかでどのような対応が適切であるか苦慮した。</li> <li>・保護者の方々の温かいご協力を頂くことができた。保護者の皆様の学校への関心の高さを感じるとともにPTA活動の必要性を再認識した。PTAとの親睦を深めるための懇親会を実施した。研修旅行の計画を早い段階で行うことが必要であった。</li> <li>・図書の出冊冊数は、図書館や本の紹介を積極的に行うことで目標冊数に届くことができた。今後も生徒が読書に興味・関心を持たせるような取り組みを行っていく。</li> </ul> <p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10分間テストに対する生徒や先生方の意欲を高めることができた。しかし、教務部の担当の業務が増加することとなった。</li> <li>・教育課程編成や時間割変更など、教務に関する事項について先生方の要望を丁寧に向き合うよう努めた。現行教育課程の反省と変更を検討する時期に差し掛かっている。</li> <li>・本校の生徒の学力にあった教科指導をおこなうための取り組みを推進する必要がある。そのために授業アンケートや研究授業を増やす必要がある。</li> <li>・中学生に対する体験入学を県内公立高校最多の年4回実施することができた。各回の枠組みを統一して業務軽減を図ることが今後の課題である。</li> </ul> <p>【生徒部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立や校則の遵守においては、一定の成果が出ている。今後も教職員が連携し、共通理解に基づいた継続的な指導が必要である。</li> <li>・いじめに対する生徒の意識はある程度高いと思われるが、もっと相手の立場に立った考え方や感じ方ができるようにしていく必要がある。今後も未然防止のための取組の充実を図るとともに、早期発見、早期対応による適切な対応を行っていく。</li> <li>・スクールカウンセラーによる助言が生徒や保護者の悩みの解決や教育活動に有効であった。しかし、不登校傾向の生徒が多く、アンケートや面談等による生徒の実態把握や教員間の情報共有をさらに推進していく必要がある。スクールカウンセラーについては、その存在をより身近に感じ、その重要性を知ってもらう必要がある。</li> <li>・人権教育や道徳教育については、教育活動全体で行うとともに、生徒の身近な課題を取り上げた講演会や体験活動を行った。家庭との連携を進めるためにも、情報発信をしっかりと行ってきたい。</li> <li>・今年度も、校則の見直しについて生徒と共に学校を作り上げていく過程を持つことは、取り組みとして評価できたと感じている。</li> </ul> <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度ほぼ全員が希望進路を実現できた。</li> </ul> <p>【保健体育部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務のICT(新しい求人票閲覧システムの導入や履歴書の電子化)化を行ったが、これらの定着、進化を図っていく。</li> </ul> <p>【情報部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中での体づくり運動、特に筋力(瞬発力)の発達に必要な補強運動を継続的に取り入れる。</li> <li>・感染症対策において、流行期の指導を強化する。</li> <li>・定期健康診断の事後措置について来年度も受診指導、勉強会を実施していく。</li> </ul> <p>【商業科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フルクラウド化にともなうデータ移行の作業そのものは円滑に進めることができた。</li> <li>・回線が不安定であることや、データの管理など課題も出ている。</li> </ul> <p>【商業科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇部商業高校の特色ある教育について、宇部商コレクションを中心としたベースが構築されつつある。今後は、その他の授業についても、更なる実践の充実と情報発信が課題と考えている。</li> <li>・上位資格取得率の低下が課題。資格取得率の向上と共に、資格取得以外の方法で専門性を高めるためにはどのように取り組めばよいか研究する必要がある。</li> </ul> <p>【業務改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用したアンケート調査等は業務改善につながった。業務用パソコンのフルクラウド化により新たな課題も見出された。授業等におけるICT機器の効果的な活用が課題である。</li> <li>・部活動の計画的な運営は順調に行われたが、引き続き、活動時間や休養日の適切な設定が課題である。</li> </ul>
---

### 8 次年度への改善策

<p>【総務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のものもっている活動への意欲を引き出せる魅力的な学校行事を立案し、生徒、教員がともに活動の喜びを共有できるよう努めたい。</li> <li>・保護者の方々の関心を学校に向けよう努力をし、保護者と教員が協力しながら生徒を指導する体制ができるよう努めたい。</li> <li>・図書の出冊冊数が今年度よりも増えるよう努める。</li> </ul> <p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10分間テストへの意欲を高める取り組みを継続するとともに、その取り組みをシステム化して教員の負担が増えないように配慮する。</li> <li>・教育課程検討委員会が次年度以降の教育課程を検討する。</li> <li>・統一した形式での授業アンケートを実施し、教材研究のさらなる推進を図る。</li> <li>・家庭学習を促す取り組みを教務部内で検討する。</li> </ul> <p>【生徒部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価に関する内規の変更をとおして、生徒の主体的な学びを促す。</li> </ul> <p>【保健体育部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立や校則の遵守については、引き続き全教職員が共通理解の上で指導できるよう、情報共有を図っていききたい。</li> <li>・情報モラルの指導については、いじめの未然防止にもつながるため、指導を継続し、折に触れて教職員による指導を行うとともに、警察・携帯会社等の外部講師を招聘した講演等を引き続き実施する。</li> <li>・スクールカウンセラー活用の推進を図るため、生徒だけでなく、学年等と連携して、生徒・保護者への情報発信を行っていききたい。</li> <li>・引き続きアンケートを用いた生徒の実態把握を定期的に行うとともに、生徒の日常の小さなサインを見逃すことがないよう、学年と連携をとり情報共有を密に行っていききたい。</li> <li>・校則の改定については、本校の良さを残しつつ、生徒とともに作り上げていく姿勢を継続していききたい。</li> </ul> <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい取り組みによって業務の効率化が図られた反面、新規の業務負担も増え、充実のためには、人的パワーの充実が不可欠である。</li> <li>・就職であれ、進学であれ生徒の基礎学力や業務遂行能力の向上が求められており、教育活動全般での取り組みが必要である。</li> </ul> <p>【保健体育部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中での体づくり運動、特に筋力(瞬発力)の発達に必要な補強運動を継続的に取り入れる。</li> <li>・感染症対策において、流行期の指導を強化する。</li> <li>・定期健康診断の事後措置について来年度も受診指導、勉強会を実施していく。</li> </ul> <p>【情報部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回収した校務用PCの余りを職員室などで活用できないか検討したい。</li> <li>・情報発信を活発にするために、SNSの更なる活用を検討していききたい。</li> </ul> <p>【商業科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、宇部商コレクションの内容や日程等の課題を洗い出し、改善案を検討し実践する。その他の授業についても、専門性や商業という特色を活かした活動の充実が求められる。</li> <li>・生徒に身に付けさせる「社会への対応力」の全学的取り組みについて、商業科がリーダーシップをとって推進する。</li> <li>・3年間を通じた資格取得計画の見直しが必要。また、資格取得が苦手な生徒にどのような形で商業としての専門性を身に付けさせるか検討し、授業計画を改善する。</li> </ul> <p>【業務改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職と教職員の意思疎通を引き続き促進するとともに、教職員が学校改善に向けた協議を率直に行える組織作りを進める。</li> <li>・業務用パソコンのフルクラウド化に伴う活用方法を全教職員相互に共有(教科や学年等の垣根を超えて)し効率的な業務改善に取り組む。</li> <li>・学校評価アンケートの結果をもとに、分掌や学年間の情報共有の場を増やすとともに、各分掌の担当業務の見直し、改善を通して、業務の平準化と効率化を図る。</li> <li>・在校時間管理システムデータの活用して個別の面談を実施したり、部活動計画に基づいた運営状況を確認したりするなど、教職員自身が業務削減意識を向上できるように努める。</li> <li>・感染症対策や安全点検を組織的に、安全・安心な学校運営をめざす。</li> </ul>
--